

ダニエル・カールの

聞きたい! 消防団

第8回

東京都新島村新島消防団

皆さん、あけましておめでとうございます。

今回は、伊豆七島の一つである新島（東京都新島村）をお訪ねしました。日本全国のいろいろな所に行かせてもらいましたが、こちらは初めてです。

先日の台風では、伊豆大島が大きな被害に遭われたことは皆さん御存知のことだと思います

が、こちらはどうだったのでしょうか。

そのときの状況、消防団の現状、防災対策などなどをお尋ねしたいと思います。

では、新島村新島消防団の青沼邦和団長、新島村総務課行政係の植松純主任のお二人からお話を伺いましょう。



左から、植松主任、ダニエル・カール、青沼団長
(新島空港消防所内で撮影)

新島村と新島消防団について

ダニエル 本日はよろしくお願いします。まず、新島村の概要について教えてください。

植松主任 新島村は、東京（都庁）から150キロメートルほど南に位置しており、新島、式根島及び無数の島から構成され、総面積は約28平方キロメートルになります。

新島へは、東京（竹芝桟橋等）や下田からの船や、調布飛行場からの飛行機でアクセスできます。



調布飛行場から約40分で新島着

サーフ・スポットとして世界的に有名なビーチ、温泉、コーガ石、くさやなど多くの観光名所や特産物があり、たくさんの観光客の皆さんに来ていただいています。

人口は約2,900人で、新島にはそのうち約2,400人がいます。

青沼団長 新島村には、新島消防団と式根島消防団の2つの消防団があり、それぞれに団組織があります。1つの村に2つの消防団があるのは、全国的にも珍しいと思います。私が団長を務める新島消防団には、現在、141人の団員がいます。

ダニエル 人口の約5～6パーセントが消防団員になっているのは、すごいですね。

青沼団長 常備の消防署がないので、消防団が主役となってがんばらないといけませんからね。

ダニエル 主にどのようなかたが団員になっていますか。

青沼団長 自営業者より会社員が多いですね。公務員も多いですよ。

ダニエル 平均年齢は…?

青沼団長 30代が多いですね。東京都内では、比較的若いほうだと思います。

ダニエル どんな訓練をしているのですか。

青沼団長 消火なども自分たちでやらなければならないので、毎年2回、東京の消防訓練所（東京消防庁）から教官を派遣してもらって、みっちり訓練をしています。



消火訓練の様子



救命講習の様子

災害時の対応等について

青沼団長 今、いちばん心配しているのは、地震による津波です。新島は、伊豆七島では、地震の際に想定される津波がいちばん高いんです。

ダニエル 東日本大震災のときはどうでしたか。

青沼団長 大震災のときは、大津波が来る想定が出ましたので、全島民で避難所に避難しました。伊豆七島では、全員避難はうちだけでした。地震がきたらどれだけ早く逃げるかが課題ですね。避難所はセッティングできていますので。

ダニエル 勧告が出てから、避難までどのくらいの時間がかかりますか。

青沼団長 訓練では、13分以内を目標にしていますが、実際には遠い場所でも11分以内に避難できていますね。

ダニエル 要援護者のかたへの対策は？

青沼団長 要援護者名簿を作成し、団員を担当としてはりつけています。ただ緊急時の場合は、団員も仕事をしているのですぐに駆けつけるのは難しいので、(要援護者の)近所の人に平日頃からお願いしています。なるべく協力して避難してくれと。地元自治会との連携をより密にするのが今後の課題ですね。



ダニエル そこまで準備すると安心ですね。

青沼団長 準備だけではいざというときに動けるかが心配なので、訓練が大事ですね。当島では年1回避難訓練を行っています。

ダニエル 先日の台風26号では、こちらでは、どのように対応されましたか。

植松主任 当然に新島でも、土砂災害警戒情報がでて、職員や団員は、一日中、警戒出動していました。危険箇所は東京都で発表しているので、あらかじめ調べておいて、必要地域には土砂災害警戒情報が出たときは避難勧告しますと各戸にお知らせをお配りしてします。前の台風のときは、避難所を開設し、受け入れの準備をしていました。

ダニエル 先日、新聞で見ましたが、新島村の消防団の皆さんで大島に土砂撤去のお手伝いに行ったそうですね。

青沼団長 11月9日に新島消防団から68人、式根島消防団から22人、計90人で行きました。

ダニエル 新島消防団では、ほぼ半数のかたが参加したんですね。

青沼団長 急ぎよ決まったので、行ける人だけで行きました。新島と大島の間には定期連絡船があるので、スコップと弁当・飲み物を持参して、それに乗って行きました。宿がないので、日帰りです。現地では、土砂が入り込んでいる家がまだまだあって、なかなかの重労働でした。最高齢の私も体力の限界までがんばりましたよ。

ダニエル 東日本大震災後の山形と福島の関係に似ていますね。幸い山形では大きな被害が出なかったので、多くの方が福島にボランティアに行きました。お隣同士、お互い様ですね。

青沼団長 同じ島同士、片方がすごい被害

で、こちらはたいした被害が出てないわけですから。

ダニエル またお手伝いに行く予定は？

青沼団長 冬は海が荒れるので、船で行くのもなかなか大変ですが、また検討したいです。

日々の心がけ、これからのこと

青沼団長 新島には、至るところに海拔〇メートルという表示をした看板などがあります。

ダニエル さきほど島内を回った際に、いくつか見ました。

青沼団長 海岸線には災害時の避難経路を示した矢印があり、逃げる方向を指示しています。これらは、ほかの島では、そんなにはないと思います。観光客の皆さんには、新島に着いたと同時に、地震に遭ったときは、30メートル以上の高さには逃げるという意識をしてもらって、至るところにある海拔表示を目安にしてどのあたりの高さにいるか知ってもらいたいですね。皆さんに安心して来てもらいので。

ダニエル 島民のかたには、津波避難についてはどのように伝えていますか。

青沼団長 新島村では、どこにどのくらいの高さの津波が来るおそれがあるのか、どう避難して、どこ（30メートル以上の避難施設）に避難すればいいのかを示した津波避難マップを作成し、全戸に配布しています。津波の高さの想定基準が上がったので、現在の暫定版をより細かくレベル・アップしたものを作る予定です。

ダニエル （マップを見ながら）これだけ細かいと安心ですね。

青沼団長 やはりこちらでいちばん怖いのは津波ですから。津波が来たら住民といっしょ

に避難しろと団員に指示しています。団員は住民を避難させるのですが、必ず住民といっしょに避難しろと。そうしないと団員が被害を受けてしまうので。

ダニエル 待たない、戻らないですね。

青沼団長 戻ってはいは、間に合わないの。

ダニエル 東日本大震災では、自宅などに戻って被害に遭うかたもたくさんいましたね。

青沼団長 こちらでも、東日本大震災のとき、高齢の家族が心配で戻った者が何人かいましたので、ここはしっかりと伝えていきたいです。津波は第1波より、第2・第3の波のほうが大きい。最初の高さがたいしたことないと思っても、すごいのが来ますから。波は引いたら戻ってくるわけだから、若い頃の経験で、高台に逃げなければいけないことは、わかっていました。

植松主任 東日本大震災のときは、（新島の）羽伏浦（はぶしうら）海岸では、50メートルほど波が引きました。

青沼団長 目視などを含めて情報をしっかりと仕入れ、誤報もあるので、その内容をきちんと把握することが大事ですね。

南海トラフなどでは、30メートル超の津波が来る想定も出ています。伊豆七島では、新島だ



羽伏浦海岸（世界的に有名なサーフ・スポット）

けやたら高いです。津波への対策基準はいちばん高いところを想定して作るので、今後もいろいろと検討していかないといけませんね。

ダニエル 皆さんの意識の高さには、脱帽です。

対談を終えて

新島村と私には、実はつながりがあります。

昔、伊豆七島には多くの人々が流されたことは有名ですが、新島には知識人の流人が多く、いろいろと島民に教育してくれたそうです。その流人第一号が山形県羽黒町（現在は合併して鶴岡市）のかただったそうです。この縁をきっかけとして、新島村と山形県羽黒町は長年にわたって友好関係にあり、人事交流も盛んなそうでして、実は私の妻の母が羽黒町の出身です。初め

て来た場所なのに、御縁を感じました。

今回は鬼マネージャー（笑）の厳しいスケジュールのために、残念ながら少ししか滞在できなかったのですが、今度来たときは、のんびりしたいですね。

消防署のない離島では、消防団員の皆さんは、火災、台風、津波など、多くの災害に対して、主力となって当たらなければならないので、ほんとうに大変だと思いますが、どうかお元気で。

新島村新島消防団員の皆さんのいっそうの御活躍をお祈りします。

今年も全国の消防団の皆さんや関係者の皆さんにとって良い年になりますように。

（ダニエル・カール）



展望台から見た新島の市街地等